

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
第16回 5GHz帯無線LAN作業班 議事概要

1 日時

平成31年4月8日(月) 16:00~16:40

2 場所

中央合同庁舎第2号館 10階 共用10階会議室

3 出席者(敬称略)

主 任:梅比良 正弘

構 成 員:浅井 裕介、(代理)秋元 守、足立 朋子、伊藤 泰成、小山 祐一、
(代理)川辺 俊和、小嶋 正一、近藤 毅幸、城田 雅一、津田 喜秋、
(代理)中村 一成、成瀬 廣高、野島 友幸、前田 規行、前原 朋実、
(代理)山内 洋

事務局(総務省):棚田課長補佐、福川第一マイクロ通信係長

4 配布資料

5GHz作16-1	5GHz帯無線LAN作業班(第15回) 議事概要案
5GHz作16-2	報告書(案)等の主な修正案
5GHz作16-3	今後のスケジュール
5GHz作参考1	報告(案)「次世代高効率無線LANの導入のための技術的条件」 に対する意見募集の結果及びそれに対する考え方案
5GHz作参考2	報告書(案)(修正案を反映させたもの)
5GHz作参考3	報告概要(案)(修正案を反映させたもの)
5GHz作参考4	新 DFS パタンへの対応について

5 議事

(1) 作業班報告(案)について

事務局が「5GHz作16-2」に基づき、浅井構成員が「5GHz作参考4」に基づき、それぞれ説明した。主な質疑等は、以下のとおり。

山内氏 : 「2.7.6. DFSに求められる基本的な要素」で気象レーダーが長パルスと短パルスを使用する理由を記載いただいているが、より分かりやすい記載案を提案したい。

まず、図2.7.6-3 固体化MPLレーダーによる気象観測イメージについて、「長めの長パルスを用いると短パルスのピーク電力も下がり～近傍の観測精度が落ちる」とあるが、「長めの長パルスを用いると短パルスの観測範囲が広がる一方、短パルスは感度が低いため近傍の観測精度が落ちる」というのが正しい。

また、同じ図に「パルス長を長くするとピーク電力が小さくなり、遠方を観測できる」とあるが、「パルス幅を長くすると受信感度が向上するので、遠方観測が可能となる」という理解が正しい。

次に本文について、そもそも気象レーダーがどのようにパラメータを設定しているのかを冒頭に記載したほうがより丁寧だと考えた。

さらに、資料16-2 10頁目 第2段落にある「パルス長を長くするほど～パルス圧縮技術が用いられる。」という一文は、9頁目 第2段落の2文目として記載した方が、説明が頭に入りやすいだろう。

後ほど事務局に修正案を送付するので、確認の上、検討いただければと思う。

梅比良主任 : エディトリアルな修正だと思われる。気象庁の提案に対して特段意見がないので、頂いた提案のとおり報告案を修正したい。詳細な案文は、後ほど事務局に送付していただきたい。

梅比良主任 : 通信負荷率の条件として、時間占有率の30%以上とするものとあるが、時間占有率が100%となる場合も対象に含まれていて問題はないか。

足立構成員 : DFSの動作試験を行うときは、時間占有率を最低30%確保した状態で通信しなければならないという趣旨であり、書きぶりは問題ないと思われる。

質疑応答後、梅比良主任より、報告案を一部修正した上で陸上無線通信委員会に報告すること、また報告の内容については、梅比良主任に一任し、事務局が構成員に修正後の報告書案を回覧することとなった。

(2) その他

事務局が今後のスケジュールとして以下のとおり説明した。

- ・ 本年4月11日の陸上無線通信委員会において、意見募集の結果とそれに対する考え方及び報告案の修正内容を報告し、承認を得られれば、同月中に情報通信審議会から一部答申を得られる見込みであること。
- ・ 参考資料1:意見募集の結果とそれに対する考え方は、同委員会に承認され次第、公開すること。
- ・ 情報通信審議会から一部答申を得られたら、一部答申の内容を踏まえて速やかに制度整備を行うこと。

(閉会)